

## まつど未来づくり会議 会議録

分科会名：教育分科会（第2回）

開催日時：平成21年8月29日（土）13時00分～16時00分

開催場所：教育委員会5階 会議室

出席委員：海老名みさ子、鎌形武久、神山真理、小林恵美、三枝雅信、  
竹島さゑ、橋本恵子、山口和子、関聡、山口昌郎（敬称略、順不同）

欠席委員：難波幸男（敬称略）

事務局：伊東朱美、久富博之（政策調整課）

### 【会議内容】

#### ■分科会会長挨拶

子どもたちのために何が必要か、提言して取り入れていただくためにこの会議があるが、私見では地域のつながりがうすくなっているのが大きいのではないかと。何かあるとすぐ、学校の先生が責任もないのにマスコミなどですぐ謝るのは、地域住民が学校をバックアップしないからだと思う。こういうことをなくすためにも、学校と地域のコミュニケーションをはかっていく、そのためにいろいろな手段を考えていくのが課題だと考えている。よろしくお願ひしたい。

#### ■事務局説明（本日のねらい・進め方の確認）

- ・ 本日のねらい：「テーマ・政策に関する理解・探求促進」
- ・ 資料の確認
- ・ 進め方：結論を出すのではなく、話し合いを通じて探求・理解を深めることを目的とし、第2回で話し合われた内容をもとに第3回以降で成果物を生み出していく。
- ・ 話し合いのルール
  - ⇒全ての意見に価値を置く
  - ⇒人の話をよく聴く
  - ⇒想いや考えは全体で共有する
  - ⇒時間厳守
  - ⇒未来に焦点をあてる

■ チェックイン：「今の正直な気持ち」や「気になっていること」などの想いを共有

■ 分科会へのメッセージ・エール・依頼文の確認

■ 第1回分科会で話し合った内容の確認

■ データ集を読んだの気づき・感想の共有

- ・ここには強みばかりが載っているのので、弱みを出してみたい。スタッフ派遣制度の詳細や、学校評価制度がどう活用されているのか知りたい。
  - ・市の行事が市民に等しく伝わって広報が行き届いているのか、疑問がある。七草マラソン等、いいことをやっても知らない人が多い。
  - ・学校ごとの教育の独自性も大事だが、全体として学力の向上をどう図るかがより重要ではないか。基本の学力が備わってこそ、考える能力も身につく。
  - ・学校選択制をもっとオープンにできたら、子どもの自由度がもっと大きくなって個性を活かした教育ができると思う。
  - ・子どもたちの苦手な科目をサポートするための授業のようなものを、一般市民の力を使ってできないか。
  - ・スタッフ派遣制度のスタッフは、誰がなれるのか知りたい。もし資格制限があるなら、それを緩和していろんな人がなれたらいい。
  - ・市立松戸高校に国際人文科というのがあるが、ここには外国人はどれだけ入っているのか。
  - ・P.84を見ると、応用力つまり考える力が不足していると思う。それが生きる力につながるものだから、異文化・異年齢の交流などを交えた工夫された授業で、そういう力を育てられたらいいと思う。
  - ・学校評価はオープンにされているのか。保護者は、これに関するどのような資料に基づいて学校を選択しているのか。
  - ・地域で子どもを守ることにについての意識が高まっているというが、これは何から子どもを守る意味なのか。もしいじめとかであれば、子どもは同調圧力が強いためにいじめをする面が強いから、それを解決するには、同調せずに自分で判断する力を育てるのが大事ではないか。
- データ集の場合、子どもを犯罪から守るという意味。いじめ等の校内問題を含んでいるわけではない。
- ・松戸市文化祭参加者の減少に見られるように、文化への関心が低下している。子どもにいろいろな一流の芸能を見せて、感動を与える必要があるのではないか。
  - ・スタッフ派遣制度のことは、データ集を見るまで知らなかった。
- 学校のことは、子どもや孫とかで関係がなければ一般には知られにくいところがある。
- ・松戸市の文化・伝統についてまとめたパンフレットが必要だと思う。松戸には、全国的に著名な歴史的物事などが無いので、そういうものを使って親が子どもにいろいろ教えられるようにした方がいいのではないか。

- ・松戸市文化祭の参加者が減少しているが、市の掲示板のようなものがなく、広報での扱いも小さい。子どもに実際の文化活動を見せるのが大事だから、学校等にパンフレットを送ったりすることも必要だし、市の許可を得てもっと宣伝したい。
- ・知っているものとして説明しておきたい。

スタッフ派遣制度とは…

学校の課題解決のため、ニーズに合った非常勤職員を学校に派遣する制度。学校に企画書を書いてもらって、派遣の可否を決定する。なお、派遣する職員は教員免許所持が条件になるが、現行の法では免許がないと授業ができないので、条件を緩和するのは難しい。

学校選択制とは…

現在の学区を少し緩やかにし、子どもの登校の便を図るために、徒歩の範囲内で行ける学校を選択できる制度。例えば、目の前に学校があるのに学区の関係で20分も歩く学校に行かねばならないとか、そういう不便を解消することができる。元来法的には可能であったが、それを知っている人しか選択できない状況を改善するため、制度として公にした。

学校評価制度とは…

現在は法律で全学校に義務付けられているが、松戸の場合、児童・生徒や保護者によるアンケートを実施し、教員の内部評価や地域の人で構成される評価委員等により評価を行う。ホームページに掲載したり、保護者便りに載せたりして結果を公表している。

- ・教育条件の整備のため、もう少し予算を増やしてほしい。
  - ・子どもたちは、場合によっては大人よりも忙しい中でいろんな分野で頑張っている。それをもっと市民に知ってほしいし、周りの大人はその負担を増やさないようにしてほしい。
  - ・市全体の学力向上の施策を考えるとところはあるのか。それを考えたい。
- 学力向上委員会という組織がある。
- ・中学校などで、部活の子たちが夜遅く（10～11時）まで練習していて感心するが、子どもたちのサポートはどうなっているのか。
  - ・歴史文化の伝統についての政策があるので、戸定邸保存について考えたい。

#### ■対話セッション

- ・スタッフ制度について、教員免許はなくても地域の人が子どもに教えたりできればいいと思った。

- 子ども達に、地域の経験などを学校で教えることができないか。授業の内容がバラエティに富んでいいと思うが。
- 不登校の子供を対象としたふれあい学級に、紙トンボを教えたことがある。他にも何度かあるが、総合学習やPTAの活動などで呼ばれることが多い。
- 常盤平の小学校で、学校の空き教室を使ってお花とお茶の講義をやった。
- 実は、自分の力を学校教育に生かしたい人が登録できる人材バンクがあるが、活用されていない。教科の中でも、そういう人たちを活かせないのか。
- 登録されているだけだと実際その人がどんな方かわからないので、現場としてはお願いしにくい。
- 登録した人に研修を受けてもらって、基本的な部分を身につけた上で学校に来てもらえばいいのではないか。
- イギリスでは、地域の人たちが行なう授業が週に1回あって、すごく楽しかったという話を聞いている。
- 「ようこそ先輩」のミニ版みたいなものができるといい。
- そうやって、いろんな大人と接することによって子どもも大人に慣れていくだろうし、考える力もつくのでは。
- 現場の意見を言わせて頂くと、学校は学習指導要領に基づいて教育をおこなうところだから、まず学校側のニーズがあって次に人が必要になる。だから人材リストだけ用意されても、授業は決まった時間に行われるので時間的制約は大きいし、ある程度継続的にお願いできそうでなければ、カリキュラムに組み込むのは難しいということになってしまう。  
先ほどのお花とお茶の講義という話は、たまたま社会科の室町時代の文化を知るために必要になったところ、ご本人のご都合が一致したケース。教えたという気持ちはよくわかるが、現場には多くの制約があることはご理解いただきたい。
- その他の地域人材活用の例を見ると、地域での人のネットワークができていて、学校のニーズに合った人を素早く提供できるようになっていたり、教員や学校の個性によってできていたり、要因が多種多様なので一概にこうすればいいと言えないのが難しい。
- PTAの会長が学校に働きかけるというのは考えられるか。
- 先ほど言ったように、それでうまくいくという保証はない。外部の人が入ることありきになってしまうと、現場の流れやニーズにうまく合わないと思う。
- 父兄と学校が話し合うことがまず先ではないか。学校に話を持っていくと、できないといわれてしまう。
- 先ほど制約の話をしたが、さらに言うと授業は1クラスだけでなく複数のクラスでやるので、他クラスとの調整も必要になる。先述の制約以外にも、そ

- ういろいろな条件があるため、一度できても切れてしまったりする。そう  
なると、継続性が見込めないのが難しいということになってしまう。また、  
多くの教科があるので一つのものだけ授業の枠を広げるのは無理。
- 学校と地域住民のかかわりがなく、父兄と学校側の集まる機会もない。両者  
をつなぐコーディネーターもいないので、市民の想いがあっても実現しない。  
なんとか、子どもと一緒に勉強するおじさん、おばさんみたいな人たちを学  
校においてもらえないか。
  - 市民は子どもの教育を学校任せにしすぎなのではないか。お金のかからない  
地域の人たちをもっと活用できないか。
  - 学校によっては、クラスの後ろで保護者が待機していて、算数の問題ができ  
るとその人たちに見せに行き行って教えてもらう、というようなところもある。
  - 地域の人たちの出番をもっと増やすには、どうしたらよいか。
  - まず自分たちでできることを行動に移したらどうか。学校に **PR** してこっちを  
見てもらうようにする。
  - そうは言っても、やはり授業のニーズに合うかどうかが一番大きな問題なの  
で、**PR** して声がかかるかどうかは難しい。
  - 地域の人が入る学校への学校の抵抗感は、以前と比べると少しずつつう  
すくなっている気がする。ただ、地域のニーズと学校のニーズが合っ  
ていないのかもしれない。

- 投票：対話での探求を踏まえて、共有された課題意識・想い・具体的な期待  
の中から、特に重要だと思うものについてシールで投票した
- 項目の中で市民として貢献できることや課題に下線をひいた
- 以上の内容を整理したものが別紙
- 話し合いの感想を共有
  - ・市民として学校教育に関心が高く、みんな参加してみたいということがよく  
わかった。
  - ・教育委員会（学校側）と市民（地域住民）の間に、少し壁があるように感じ  
た。
  - ・市民の力を教育に生かすという話のポイントがきまったので、その方策をし  
っかり考えたい。
  - ・市民の力はしなやかでしたたかなので、かたい教育行政でも少しずついい方  
向に動かしていきたいと思った。
  - ・話がだんだんもりあがってきて、市民の力は強いなと思った。少子化の今、  
みんなで子育てに参加し、子ども達に将来を担ってほしい。
  - ・学校教育に市民が参加する方向性が見えてきた。

- ・子どものために何か役立ちたい、という皆さんの熱意を感じた。学校あるいは別の場所で、その想いをいかしていければと思う。
  - ・子ども達のためにという市民の熱い力を感じた。
  - ・世代を超えた生涯学習を市民ができるようになるといいという思いと、市民が立ち上がり、一歩前に出ることで何事もしえろという力強さを感じた。
  - ・なぜだかわからないが、今日はとても楽しかった。うれしく感じた。
  - ・これまでの話では出なかったが、教育は家庭から始まる。東北の方がテストがいいのは、家庭がきちんとしているからだといわれる。家族で話すことの重要性も喚起していった方がいいのではないか。
- 賛成で、今日の話は別の方向に行ってしまったが、家族はすべての基本だからこの会議の重要なポイントになると思う。

#### ■ 次回の説明

ここまでの探求を踏まえて、私たちは何を実現したいのか政策テーマごとに検討し、「目指したい姿の宣言文」を作成する。

#### ■ チェックアウト

#### ■ 分科会会長あいさつ

20年前に時計の針を戻すという話があったが、昔あったコミュニケーションの場を取り戻すという意味では賛成。そういう場を作っていく努力は必要だと思う。

以上

政策	想い・課題意識	具体的な期待
<p>07 子どもたちが自らの将来の目標を持ち、その実現に必要な知識や経験を得られるようにする</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個の学力に応じた学習環境のさらなる充実(8)</li> <li>・コミュニケーション力を育てたい(1)</li> <li>・少子高齢化で小・中学生の数が減っているが、外国にルーツを持つ子ども数は増えている。そういう子どもたちが日本(松戸)の学校に入り、日本人の子どもたちと同じに学ぶ上で、考えたいこと(3)</li> <li>・何か夢中になるものを一つ以上持つ子どもを育てたい(3)</li> <li>・ものづくりに興味を持つ子どもたちを育てたい(0)</li> <li>・体験学習を多く取り入れ、授業を楽しくさせたい(3)</li> <li>・学校図書館の充実—財政を考えると、今ある設備を有効利用することが大事。学校図書館に専門の司書がいれば、子どもたちに適切な読書指導ができると考えます。教科の調べ学習等、子どもたちの知識の世界が広がります。(5)</li> <li>・エコに関心のある教育を目指したい(0)</li> <li>・読書週間の定着、図書館司書の充実(1)</li> <li>○学校選択制がもう少しオープンに出来ないか。(0)</li> <li>○「弱み」が少ない。教育現場や地域での教育の不都合をもう一度洗いなおしてはどうですか。(0)</li> <li>○学校の耐震対策は急いでほしい。(0)</li> <li>○日本語支援のねらいがあいまいと思う。(0)</li> <li>○スタッフ派遣制度に入っている人材は、ほとんどが教員か。(0)</li> <li>○市立松戸高校の国際人文科に外国人枠がないのはなぜ。(0)</li> <li>○学校評価は父兄にオープンにされているか。父兄はどのような資料を基に学校選択しているのか。(0)</li> <li>○松戸市全体の学力向上を図るべきではないか。市としての施策は？(0)</li> <li>○施設・整備面等教育条件整備への財政的な支援がもっとほしい。(0)</li> <li>○中学校の部活動で遅くまで練習しているようですが、市でのサポートはどうなっているのか(0)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域コミュニケーションの強化(町会、まつり)(1)</li> <li>・学校が本来の教育活動に集中できる環境をつくる(ポジティブリストからの脱却)(4)</li> <li>・子ども達が伝統文化を学ぶ機会を得るために、市としての施策がほしい(2)</li> <li>・財政が厳しい中での場の確保、譲り合い、共有・・・(2)</li> <li>・優れた指導者(先生)を採用する(5)</li> <li>・子どもたちの理科好きを育てる(科学館の建設)(6)</li> <li>・プランの作成(0)</li> <li>・エコ・ものづくり体験(環境教育の推進)(1)</li> <li>○いじめの問題—自分で考える力を養う。地域で子どもたちを守る意識が高まっているとのことだが、具体的なそのシステムはどのようなものか。(0)</li> <li>○学校ごとの教育の独自性もさることながら、松戸市全体として教育(学力)の向上がいかんにはかされるか。(0)</li> <li>○学校評価をどのように役立っているのかを知りたい。(授業にどう生かしているか)(0)</li> <li>○目標は、数字にする場合65%のような数ではなく、2/3(66.7%)とか半分(50%)の数字が適当と思う。(0)</li> <li>○限られた時間の中で活動している中学生や、高校生の活躍をもっとアピールしたらどうか。多分大人より忙しい。あれもこれも子どもたちに言って負担を感じさせたくない。(0)</li> <li>○平成18年度千葉県学力状況調査結果を見ると、応用力が不足しているのだと思います。得た知識をもとに、どうやって問題を解決できるかと考える力は、生きる力にもつながり、大切なことではないでしょうか。工夫された特色のある授業や教育は考える力を導き出すと思います。異年齢、異文化の交流や地域の力も取り込む教育が必要(0)</li> </ul>

<p>08 生涯学習やスポーツを楽しむことができるようにする</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯学習として利用できるスポーツ施設の充実を希望(7)</li> <li>・児童のスポーツが身近なところで実践、参加できたら幸い(0)</li> <li>・年寄りの、一人一つのボランティア参加(0)</li> <li>・生きる力を育てたい。多世代交流で…。(2)</li> <li>・スポーツを通じて世代を越えた交流の場を作りたい(0)</li> <li>・健康維持のため、子どもも大人も一人一種目以上のスポーツに参加できるようにしたい(0)</li> <li>・市立図書館の建設—新たな市立図書館は市民の学習する場を大きく広げます。講座や発表、ミニコンサートをし、同じ館でそれに関する本選び等、市民の文化向上にもつながるのでは…。(7)</li> <li>・松戸の文化レベルの向上(2)</li> <li>・図書館の充実(学校・中央地域)(3)</li> <li>○活動は市民の自主性を中心に、場所の確保は行政が行う必要がある</li> <li>○学校だけでは出来ないスポーツ等補助できないか。サポート(1)</li> <li>○文化祭の参加数減少している→広告・宣伝少ない。もっとわかるように。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育に、地域の人々の力も生かしたい(11)</li> <li>例)コミュニティ・スクール→スクールコーディネーター</li> <li>・学校、教育委員会、地域の3者のうち、地域と教育委員会の関係が弱いと思う。何とかできないか?(2)</li> <li>・自分の生かせることを小さいうちから選んでいける学習づくり・文化教育づくりを(1)</li> <li>・老人は自分で楽しめる趣味(文化)を持ち、学生にはクラブ活動などで楽しみを持てる日々(未来へ向けて)(3)</li> <li>・子ども達が一生過ごせる街・教育文化・伝統づくりをする(体にしみこむもの)。海外に行って振り返ったとき、街を文化を言葉で体で語れるように(0)</li> <li>○松戸市で行われている行事(すべて)が市民に等しく伝わっているのか。多くの市民に広報活動が行き届いているか。</li> </ul>
<p>09 松戸の歴史や文化・伝統が保持され、後世に伝えられるようにする</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保存、公園化、身近にあること(0)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・松戸の歴史文化・伝統保持のため戸定館の使用方法を考え直してほしい(使いながら保存する)(7)</li> <li>・伝統工芸士が松戸に7人いるそうですが、そういう方たちを松戸市の文化に活かしていただきたい。(2)</li> <li>○松戸の歴史と文化・伝統の総合パンフレットの必要性(親が子どもを連れて行けるように)</li> <li>○戸定邸の使用法の再検討。よりよいかたちで残していくためにはどうしたらよいか。</li> <li>○伝統芸能の承継人材問題。</li> <li>○一流の芸を見せる機会を増やすことが必要(授業の中でも)</li> <li>○承継する人材発掘、育成の困難(弱)→多くいるのでは</li> <li>○多くの市民が文化芸術に親しめ、自ら創造的な活動をするようになる。小さいうちから見る・知る・考える</li> </ul>

	<p>・<u>価値観の多様化、異文化共生を理解させる(4)</u></p>	<p>・<u>コミュニティスクール制度の導入(0)</u> ・<u>全国・世界トップレベルの人材(スポーツ・芸術分野)育成(0)</u></p>
--	---------------------------------------	--